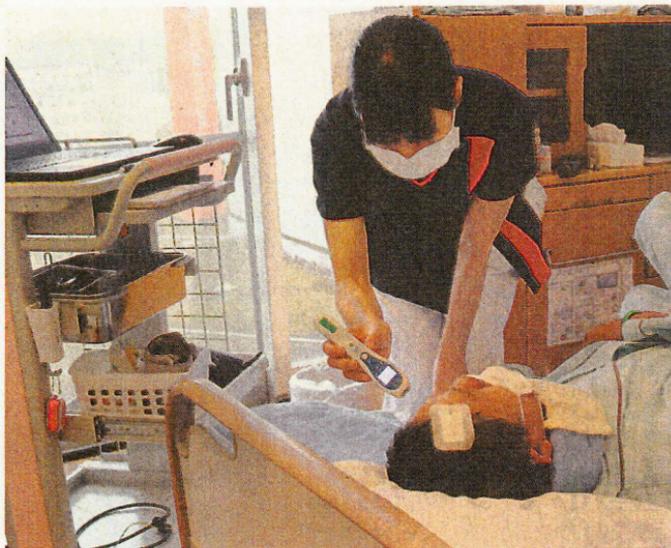


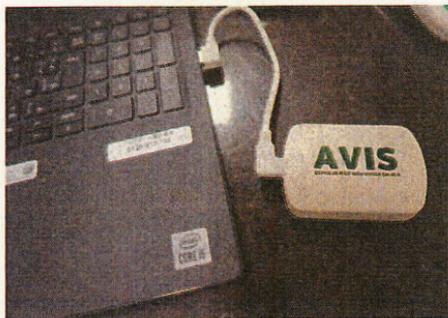
天心堂へつぎ病院が装置導入



Bluetooth機能を搭載した体温計で測定すると、看護カート上のパソコン(左上)に接続した「アービス」にデータが送信され、自動で電子カルテに入力される。大分市の天心堂へつぎ病院

患者の体温や血圧、無線で電子カルテへ

大分市中戸次の天心堂へつぎ病院(岡部英司院長、108床)は、看護師が測定した患者の体温や血圧、酸素飽和度などの結果を無線で受信し、電子カルテに自動入力する装置「AVIS(アービス)」を導入した。5月から運用を開始し、看護記録業務の負担軽減や手入力による転記ミスの防止につながっているという。



パソコンに接続した「アービス」

アービスはソフト開発会社のアクティブ・エイジ(福岡県大野城市)が同病院と協議しながら開発した。装置はパソコンに接続して使用する。近距離無線通信「Bluetooth」機能を搭載した体温計や血圧計などで測定すると、その場でデータを受信。専用のソフトウェアを組み込んだ電子カルテに自動入力する。装置とパソコンは、院内で使う看護カート21台すべてに設置した。

これまでは、測定結果を看護師が手作業で電子カルテに入力していた。

二宮幸代副看護部長は「県内でも先駆けの取り組みになった。今後もITを活用し、現場の負担を減らせるようにしていきたい」と話した。

(同屋野香純)